



第8回「井戸ばた会議」
 ～町民と議会との対話～
 2月27日(火)、バスター
 ミナルにて「第8回井戸
 ばた会議～町民と議会と
 の対話～」を開催しまし
 た。



参加者11人が3つのグループに分かれ、進行役と書記役の議員と共に30分程度の対話。席替え後さらに30分程度の対話を行い、最後にご意見用紙への記入、個別の対話の時間を設けました。
 今回も多様なご意見をいただきましたので、全てを網羅することは叶いませんが、一部をご紹介します。



SDGs	<ul style="list-style-type: none"> ・バブコメの内容を議論する機会を設けられないか。 ・名寄のようにゲーム形式でSDGsの理解を深める機会が欲しい。 ・話し合うことが少なかったテーマ（例えばジェンダーとか貧困など）について、まちづくりに必要なことが抜け・漏れなく話し合うことのできる道具になる。
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・民間によるサポート体制で託児を充実できないか（北見市の例）。 ・医療費が中学生まで無料で気軽にかかり過ぎではないか。 ・保育環境の選択肢がない。自主保育やお年寄り子どもが楽しみながらつながりを持つ場、リフレッシュするときに預けられるところ（上富良野や中富良野にあるファミリーサポート制度）が欲しい。 ・子育て世代の貧困（かくれ貧困）がないように。
超高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・二人に一人は100歳の時代。100歳まで楽しく暮らせる町をどう作るか。 ・施設に入りたくても入れない状況。 ・認知症のトラブルが多くなっている。理解、寛容性が大事。 ・1日8時間ではなく、2～3時間なら働けるお年寄りがいる。
町民主権	<ul style="list-style-type: none"> ・自治基本条例の審議内容、17年前と同じことが言われているが反映されておらず、言ってもダメというあきらめが住民の中にある。 ・町民が日々の生活の中の課題を解決するチャンスを得るためにも、役場の人的資源不足を補うためにも「政策提言委員会」を作っては。
住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・移住の問い合わせは増えているが住宅が課題、特に単身者向け。 ・ストーブの排気口が雪で埋もれない仕組みが必要。
ごみ分別	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別は良いが、なぜ分別し、どうなっているのか、自分達にどう帰ってくるのか、メリットがないとやらないだろう。
健康	<ul style="list-style-type: none"> ・医食同源が体づくりの基本。食について今一度商店に置かれている品物から学び直し、健康寿命を延ばせる下川を目指したい。 ・フッ化物、将来の安全性がまだわからない。心配のないものを使って欲しい。選択制なので希望しない人はやらなければ良いと言うが、子どもたちの気持ちにも配慮を。
井戸ばた会議	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の固定化。もっと多くの方が集うとより豊かな時間になる。 ・議員の考え方を期待しているのではないか。 ・2時間短い。たまには2時間×2とか3時間のロングバージョンを行っては。